

ニューズレター雪氷北信越

No. 18 平成3年3月12日

日本雪氷学会北信越支部発行

目次

学習会案内／機関誌／第4回総会および研究発表会・製品発表検討会の案内
講演会・見学会・講習会の報告／国際雪国写真コンテスト

学習会

福井地区H2年度第2回学習会のお知らせ

緊急

下記のとおり開催しますのでご案内します。なお今回も福井県雪技術研究会と共催とします。

と き 1991年3月18日(月) 13:30～16:00

ところ 福井県職員会館 401号室

福井市松本3丁目16-10 TEL 0776-26-0111

内 容 1・流雪溝の面的流量の計算方法について

福井県雪対策技術センター 杉森正義

2・消雪工等に関する設計降雪強度について

福井県雪対策技術センター 山本重男

問合わせ 福井市春日3丁目303

福井県雪対策技術センター 杉森正義

TEL 0776-35-2412

機関誌

『雪氷北信越7号』発行のお知らせと自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会(早川委員長)では、平成3年5月31日に『雪氷北信越7号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越6号』最終頁を御参照の上、ご連絡下さい。

1. 締切: 平成3年5月7日(火)必着 2. 字数: 3000字程度(用紙は自由)

3. 問合先: 〒940-21 長岡市上富岡町1603-1

長岡技術科学大学建設系 小池俊雄(0258-46-6000, 内線6124)

第4回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

支部総会および発表会は、隔年で長岡市以外で開催することになり、本年は、富山大学理学部対馬勝年先生、庄子 仁先生、川田邦夫先生のご協力で富山大学にて下記の通り開催いたします。どうぞ奮ってご参加下さい。

日時： 平成3年6月1日（土） 10:30～17:30

場所： 富山大学黒田講堂会議室

〒930 富山市五福3190 電話0764-41-1271

7:00～10:30 研究発表会

12:45～13:30 総会

13:45～17:30 研究発表会・製品発表検討会

17:30～ 懇親会

参加費：無料（ただし、懇親会参加費は3000円）

概要集：発表予稿集掲載の『雪氷北信越7号』を当日配布します。

（日本雪氷学会会員：無料、非会員：1000円）

参加申込み要領

参加申し込み：5月10日（金）必着 （総会・発表会・懇親会）

発表申し込み：4月20日（土）必着 ☐ 執筆要領は発表申し込みを ☐

予稿原稿提出：5月10日（金）必着 ☐ された方に送付。2頁以内 ☐

送付先・問い合わせ先：長岡技術科学大学建設系 小池俊雄（内線6124）

〒940-21 長岡市上富岡町1603-1 tel.0258-46-6000, fax.0258-47-0019

参加申込用紙（5月10日必着）

氏 名	所 属 ・ 連 絡 先		
	〒 tel. fax.		
総 会	発 表 会	懇 親 会	
参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加

発表申込用紙（4月20日必着）

氏名（所属略記，発表者に○）	題 目
連絡先 〒	tel. fax.
発表種別（どちらかに○）	1. 研究発表会 2. 製品発表検討会

12月22日富山大学黒田講堂で行われた講演会には会員・非会員併せて60名の参加があった。講師は富山大学雪氷学講座の3教官でした。庄子仁助教授は極地氷床のコア解析を通して地球環境が解明されてゆく過程を講演されました。川田邦夫助手は雪氷学講座が発足する以前の富山大学における雪氷研究の状況、およびご本人の雪崩研究について講演されました。対馬は雪氷学講座発足後の歩みを紹介した。同講演会は富大雪氷学講座10周年記念事業会と共催で行われ、東京、大阪など遠方から卒業生の参加もあった。雪氷学講座の教育、研究成果の展示もあり、また出席者には10周年記念誌が配布されて、盛会であった。(対馬理事 記)

1月25日、長岡市周辺の消融雪施設を訪ねて北信越支部主催の見学会が開催された。長岡市は消雪パイプの普及で知られており、その他の消融雪施設は殆ど無いように思われているが、先駆的な試みが実は諸処に見られる。今回の見学会はこれらの新しい技術の芽を訪ねることを中心に行われた。参加者は24名、折りからの季節風の強い寒空の中、熱心に見学を行った。

振り出しの科学技術庁防災科学技術研究所長岡雪氷防災実験研究所では、機械による屋根雪処理技術の研究として屋根の上に設置したブレードが移動して屋根雪を落としていく装置、湿雪をボールにして空気輸送する実験システム、平坦地でも流雪溝の設置を可能にする噴流式流雪溝等を見た。次のJR長岡駅では、20,000 m^2 以上に及ぶ駅舎の屋根雪の散水消雪施設と、巨大な直接加熱方式お上越新幹線の消雪基地を見学した。駐車場融雪装置としては、荏原製作所長岡出張所のロードヒーティング設備と中元組長岡営業所内に敷設されているヒートパイプヒーティングシステムを見た。最後の見学先は長岡ニュータウン内で行われている克雪住宅実験事業で、16件の屋根雪処理技術と2件の歩道融雪技術の実験中である。残念ながらどの屋根にも雪は乗って無く、折りからの強まり出した季節風に襟をつぼめながら駆け足で見学を終えた。長岡市でも新しい技術の芽は確実に試みられているという印象を強くして帰途に就いた。(早川幹事長 記)

1991年2月17日(日)、富山県立山町吉峰にある富山県林業技術センター林業試験場と林業普及センターを会場に、雪氷観測講習会が開かれた。講師は積雪断面観測については黒部市吉田科学館の飯田 肇氏、雪の結晶の観察法については富山市科学文化センターの石坂雅昭氏が担当し、午前中は講義、午後に実習が行われた。会場での積雪は50cm位にまで減っていたが、当日は10cm位の新雪と大粒のアラレに見舞われ、冬らしくてよかったとの評もあった。講師陣を含め18名の参加者は講義、実習を通して互いに質問、討論を行い、大変有意義であった。昼食後の1時間程、受講された林業試験場の研究員から施設を案内してもらい、説明を受けた。また講義会場となった普及センターの伊藤徳治所長から木材の香りが残り、木目の美しい建物の各種材料について親切的な説明があり、お互いに気楽な勉強会となった。

(川田幹事記)

作品募集

テーマ 「雪国」 雪国の人間、生活、風俗、風景等を題材としたもの。

作品 カラー、モノクロともにキャビネから半切までのプリント1枚写真(スライドは不可)。未発表のものに限る。

募集期間 平成2年(1990)12月から平成3年(1991)9月30日まで(当日消印有効)。

発表 平成4年(1992)2月 入選者には直接通知し、入選作品は平成4年2月、長岡市で開催する国際雪国フォーラム会場で発表展示します。また、上位入賞者は同会場で表彰いたします。

送り先・問い合わせ先
〒940 新潟県長岡市幸町2-1-1
長岡市企画調整部
国際雪国写真コンテスト係
電話 0258-35-1122(代)

賞
最優秀賞 1点 トロフィー・賞金50万円
副賞 コニカカメラ Z-up80RC
優秀賞 3点 トロフィー・賞金10万円
副賞 コニカカメラ BIG MINI
特選 10点 盾・賞金5万円
入選 50点 盾・賞金1万円

審査員(順不同・敬称略)

渡辺義雄(日本写真家協会名誉会長)
秋山亮二(写真家)
立松和平(作家)
佐藤 靖(アサヒカメラ編集長)
横田雄司(新潟日報社写真部長)

応募上の細則

- 応募資格に制限はありません。
- 応募作品は一人10点以内とします。
- 応募料は無料です。
- 応募作品の返却を希望するかは、封筒に「返却希望」と朱書きの上返却費用として千円切手を同封してください。
- 応募作品の裏面には、題名、撮影者の氏名・住所・電話・年齢・職業を明記した応募票(自作可)をはり付けてください。
- 入賞作品の第一使用权は、主催者に帰属します。原稿を借用することもあります。

主催/新潟県、長岡市

後援/朝日新聞社、全日本写真連盟、新潟日報社

協賛/コニカ株式会社